

静かな空

連絡先 742-2513 山口県大島郡周防大島町森 365 中尾久利 Tel+ Fax : 0820-78-1246

無法者！ 米軍機飛行

11月3日、全国各紙が写真いりのトップ記事で報道したように、岩国基地の米軍機の乗員が、飛行中、手放し操縦する、催眠薬を飲んで飛行する、雑誌を読みながら操縦する、ケイタイ・カメラで自分を撮影するなど、全く考えられない無規律の状態にあることが明らかになりました。（朝日は11月6日報道）

2018年12月に、四国沖100キロの海上で、ホーネット戦闘機とKC-130J空中給油機が、給油中に接触して墜落、6名の米兵が死亡したという悲惨な事故が発生しましたが、この事故の原因を調査した結果の報告に、こうした無規律飛行の実態が明らかにされたのです。下の写真は事故で墜落した戦闘機と給油機。撮影5カ月後にこの2機が墜落しました。（写真・解説 戸村良人）

2018年6月22日（金）12時39分 米海兵隊 F/A-18D ホーネット戦闘攻撃機.DT.11 番機（右写真）が離陸。この戦闘機が、2018年12月6日午前1時40分ごろ、高知県室戸岬沖南100キロ海上で KC-130J 空中給油機 7981 番機（下写真）と接触、墜落。乗員2名の内、1名死亡。



2018年7月2日（土）17時44分 KC-130J 空中給油機 7981 番機（左写真）が旋回。この給油機が、2018年12月6日午後1時40分ごろ、高知県室戸岬沖南100キロ海上で米海兵隊 F/A18D ホーネット戦闘攻撃機 DT11 番機（上写真）と接触、墜落、乗員5名全員が死亡。

大島上空を飛行している米軍機の乗員が、こういう無規律の飛行を日常的に行っていたとは、考えてもみませんでした。政府が「日本の安全を守るため」と言っている「日米軍事同盟」の実態はこんなものだったのです。こういう無

法の米軍機飛行の下で暮らしている私たちはたまったものではありません。市民のピストル所持を禁止できないアメリカですから、軍規を厳しくする、厳重に処罰するなどと言っても、簡単に規制改善できるものではないでしょう。

「瀬戸内ネット」は、ただちに岩国市に下記3項目を要請しました。

1. 岩国基地内米兵の薬物乱用の状況を調査させ米軍・国に報告させること。
2. すべての岩国基地所属部隊についてVMFA(AW)242部隊のように規律違反がないか早急に調査させ、米軍・国に報告させること。
3. 今回の報告書を受けての米軍の部隊風紀改善、規則遵守のための対応策を米軍・国に明確にさせること。

岩国市議会は11月16日、米軍に綱紀粛清を求める意見書を可決しました。

大島上空 最近の米軍機飛行は

11月6日は、多くのスーパーホーネットは、通津沖から岩国基地に戻って、大島の上は通らず、スーパーホーネットの写真は撮れていません。

写真が撮れたのは、C-2A グレイハウンド空母連絡機、後ろ姿のF/A-18D ホーネット戦闘攻撃機らしき機、米海兵隊 KC-130J 空中給油機スーパーハーキュリーズ、9227番機、米海兵隊 US-35D 軽輸送機などだけです。

爆音うるさいスーパーホーネット戦闘攻撃機、グラウラー電子戦機などは、大島の上は通らずに、通津沖あたりから岩国基地に降りていき、写真はほとんど撮れなかったとのこと。

戸村良人さんは、11月13日にも再度、文珠山へ上りました。

頂上についてすぐにF-35Bの4機編隊が文珠山の上を通過して岩国基地に降りていきましたが、これは写真撮れなかったそうです。

10時55分、米海軍F/A-18F スーパーホーネット戦闘攻撃機(岩国基地)N.F. 2機が上関方面からやってきて、文珠山北側、久賀上空あたりを通過して岩国基地に降りていきました。

10時57分、また米海軍艦載機 F/A-18E スーパーホーネット 戦闘攻撃機(岩国基地)、NF、201番機が同じ方向からもう1機飛んできて、文珠山北側、久賀上空あたりから岩国基地に向けて降りていきました。 →



← 11時15分 米海軍艦載機E-2D ホークアイ早期警戒機602番機です。上関方向から来て、文珠山の北側、久賀上空を通過して、岩国基

地滑走路へ降りていきました。

11時22分、また米海軍E-2D ホークアイ早期警戒機604番機が上関方面からきて、文珠山展望台のすぐ真上を飛んで向きを変え、岩国基地滑走路へ降りていきました。



→



← 12時4分 今度は上関のほうから柳井、大畠上空を通り、米海軍MH-605 多用途補給支援ヘリ シーホークが由宇上空から岩国基地に降りていきました

14時00分、また上関方向から、柳井、大畠上空をってから米海軍のF/A-18F スーパーホーネット戦闘攻撃機(岩国基地)、NF、2機が岩国基地に降りていきました。

→



← 15時15分、米海軍F/A-18E スーパーホーネットNF(岩国基地)404番機が、上関上空から久賀上空へ。文珠山頂上のすぐ真上で向きを変えて飛んで、そのまま岩国基地に降りていきました。

16時15分 400番台の機、3機が編隊で上関方向から文珠山の北側、久賀上空をって岩国基地滑走路に向かいました。

→



← 16時20分 EA-18G グラウラー電子戦機(岩国基地)NF 500番機。上関方面から飛んできて、久賀あたりで向きを変えて岩国基地滑走路へ。

文珠山中腹の住民の方の話だと、最近は久賀の方から来て、文珠山の近くで右にまわり、滑走路に入る飛行が多くなったようだ、とのことでした。

戸村さんの観測によれば、上関から、柳井、大畠上空、由宇上空をって岩国基地に降りていく機があり、上関から久賀上空をって、岩国基地に降りていく機があります。また久賀上空から文珠山上空へきて、岩国基地に降りてい

く機もあるようです。

これまでは、文珠山の真上や西側を飛んで、傍若無人に三蒲の町の真上を飛行し、滑走路に入る飛行が基本だったようでした。最近は飛行コースが少し変わったかもしれません。

日米地位協定で、米軍機の飛行コースを厳しく規制すれば、米軍機が飛行コースを変えて、爆音被害を減少することもできるのではないのでしょうか。

岩国愛宕山で「毒グモ」発見

2000年以來岩国基地で生息が確認されたクロゴケグモ（注1）が、10月4日に愛宕スポーツコンプレックス（注2）内で見つかった。米軍と保健所・岩国市が3か月毎に生息状況の調査をし、結果が公表されるが、そのたびに数百匹の発見。駆除した数字が知らされる。

クモは体育館前の駐車場付近で見つかったというが、恐らく米軍関係者の車についてきたのだろう。愛宕スポーツコンプレックスは愛宕町に有り、県道を挟んで隣にアタゴヒルズ（注3）のゲートが有る。262戸の住宅が有るが、大方の住宅に米兵は既に住み着いているらしく、今や5千台余に迫るYやAナンバー車が基地と往復をしているということだ。岩国市は艦載機の移転の条件として、43項目の政府要望を行い、その中でこうした毒グモの完全駆除を求めているが、その裏付けを証明できる報告はまだない。43項目の課題の一つ毒グモの完全駆除を至急求めたい。

注1： 世界一毒性の強い毒グモ。カナダ南部、アメリカ、中央アメリカ、キューバに分布し日本にはいない。（平凡社世界大百科事典第2版より）

注2： 愛宕スポーツコンプレックス（米軍のために日本費用でつくったスポーツ関連施設）

注3： アタゴヒルズ（日本費用でつくった米軍人のための住宅）

（元岩国市議会議員田村順玄氏発行『おはよう愛宕山』2019.12.1 No.599より）

周防大島町民として心配することがある。最近、「道の駅」で外人のグループをよく見かける。たぶん岩国基地からのグループもいると思われる。岩国基地から出る車にはすべて検査消毒を義務付けるべきである。

河本正道

定例会

日 時 2019.10.13

出席者 中尾久利、河本正道、河合建夫、河井弘志、木谷光雄、藤村友起

- 1 「静かな空」64 印刷終了 会議のあと、発送・配布を行う。「守る会」の活動に期待をかけている人もいるから、続けることが必要。保守的な人も運動にひきいれていく。政治的活動になじまない人と、どうしたら一緒にやれるだろうか。
- 2 爆音が比較的小となしかったので、三蒲の人たちと会合がやれなかった。騒音が激しくなったら、協議会をひらく。
- 3 宣伝カーによる広報活動をやるには、町民の心をひきつける名文句が必要。
- 4 伊方原発の運転差し止め仮処分裁判と「せとうち」印刷が同じ日になったので、参加できなかった。10月17日本裁判に行く。11月14日「原発と地震を考えるお話し」あり。
- 5 周防大島町議会に、地位協定の意見書を出すよう働きかけ。山口県の情勢判断が必要。

長谷川公一先生を囲んで (3)

『静かな空』No.63(7.15)と No.64(10.15)に、東北大学教授長谷川公一先生を囲んでの懇談会の記録を掲載しました。今回は最終回の No.3 です
藤村友起

日時：2019年4月25日(木)12時から 場所：故藤村英子邸にて
参加者：長谷川公一先生、河井弘志、河合建夫、河本正道、木谷光雄、中尾久利、藤村美千枝、藤村友起

長谷川公一先生略歴の詳細は『静かな空』No.63を参照。

※※※

河井 私らのグループのことを、どこまでお聞きになったかわかりませんが、簡単にお話させていただきますと、私が定年で戻って、その2、3年後に、厚木の艦載機が岩国に来ることになりまして、そこから署名運動を始めまして、かなりの署名を集めることができました。その残党がここに(笑)いるわけです。町民の7割まで署名を取りましてね、その運動の中心だったのがこの藤村英子さんで、みんなが叱られながらやった。(一同笑)

上関の原発問題が出てきた。この島は東西に長くて、北側は岩国基地が目の前にある、だから北側の者は基地問題にとっても敏感ですが、南側にいる人達はそれほどでもない。ところが南側の人、とくに吉井先生は目の前に上関が見えるところに住んでおられる。艦載機も重要だけれど、上関も見逃すわけにはいかんじゃないか、というわけで、議論のあげく、それじゃあ両方やろうじゃないかというわけで、岩国基地と上関原発の両方を見てからじゃないと大島郡のことは考えられないだろうということに落ち着いたわけなんです。

政治的な運動の前に、大島郡に住んでいる者の生活を脅かすようなものは困る、できるだけなくする必要がある。ところが伊方原発の問題も出てきました。だから大島は三方から攻められていることになる。

いろんなことを考えざるをえない状況で、今日までやって来て、いま細々とやっている状況なんですけれども、他にも似たような環境のところは多くあると思います。先生から、他のところを参考にしながらお考えを聞かせてもらえると、非常に有り難いと思うんです。

長谷川 日本全国、どこでもやっぱり・・・難しいですよ。私もいま仙台で、仙台港っていう港があるんですけど、そこに震災後、石炭火力発電所ができちゃって、二年前の、10月1日から稼働し始めたんです。関西電力と、それから伊藤忠商事の、子会社の子会社がやってるんです。

河井 関西電力が？

長谷川 はい。電力自由化をしたので。私が原告団長になって、2017年9月27日から裁判をやってるんですけど・・・宮城県内だけでこのほか6つ発電所の新設計画があります。もうどんどんね。それと女川原発の問題にも、我々も関わっているんですけど。

結局こういうことについて活動する人って、限られちゃうわけなんです。そうすると、どこまでどうエネルギーを割くかっていうのは確かに大問題でありますよね。

友起 なんか、成功してるとことかあるんですか？そういう市民運動とか。

長谷川 まあなかなか・・・いろんな難しさがあるけど、やっぱり保守系の人をうまく抱き込むっていうのがポイントであることは確かなんです。あの新潟県の巻原発なんかはまさにそうなんです。長年ずっと労働組合中心でやってきた時にはどうしても限界があって、最終的に造り酒屋の若旦那の人、笹口孝明さんが町長になるんです。例えば商工会の中心の人とか、そういう人が反対に動かないと、勝つのは難しい。宇井純さんも言っていました。大

分県の、臼杵だったかな、そこで、セメント工場の建設を止めた運動があるんですけど。お醤油屋さんとか、造り酒屋とか、地域の旦那衆、名家、そういう人が反対の中心になってくれるところが、やっぱり盛り上がっていますよね。

河本 中島岳志っていう人が、リベラル保守の立場で、あの人の考え、僕すごく好きなんですよ。保守を巻き込んでね、革新側が保守と手を組まんとだめだという、日本を変えるにはね。

長谷川 うん、そうですね。

河本 僕、先生の本（『脱原子力社会へ—電力をグリーン化する』長谷川公一、2011、岩波新書）をね、読ましてもらったんですけど、その中でね、「討議デモクラシー」が必要だと言われた、僕も大阪にずっと高校卒業してから暮らしてね、いろんな運動にも参加したけど、討議というのがないんですよ、運動の中で。議論するというのが。もうひとつのスケジュールを決めたらその通りにやらんとあかんというのが、運動体の原則みたいになってきたんですよ。それがまだまだ克服されていない。岩国でもここ2年間参加してるんですけどね、議論というのがほんまに不足してると思うんですよ。その辺ぜひ、ここに書いてある「討議デモクラシー」の必要性というのを説明してほしいなあというのが、これから原発問題をね・・・僕は上関原発のある室津半島の真ん中辺で生まれたんですけど、最近の統一地方選挙でもね、自民党が二人立って、自民党の県議員になって、そんなの見ても・・・同級生なんかと同窓会しても、やっぱり知らないんですよ、原発の恐ろしさとか、そんなのなんも伝わってない。まず知らせることが不足してると思うのね、僕は。ほんで、運動体ではやっぱり議論せんとあかんと思う。それがものすごく不足してるなと思う。その辺ぜひ、教えてほしいと。

河井 いま聞きました「討議デモクラシー」というのはどういう考え方なんですか。

長谷川 民主主義をどう捉えるかっていうのは色々考え方あるわけですけど、結局、議会制民主主義で、我々有権者が議員を選んで、議院内閣制みたいに、国会議員が内閣総理大臣を指名するのが、「それが民主主義でしょ」っていう。それでは形式論だ。だから宮城県でも最近女川原発に関して、県民投票を求める署名が、最低で必要だったのは確か4万だったんですけど、結果的に11万も集まった。宮城県の有権者は約200万だったと思うんですけど、200万のうちの11万も集まったんだけど、結局、県議会は自民党優位なので、潰されちゃった。日本では、特に自民党側はわりと形式的に民主主義を理解している。だから「原発が必要じゃないでしょうか」っていう人がもちろんいてもいいんだけど、さっきから問題になってるような、「じゃあ実際に重大事故があった時に、どうやって現実的に避難するんですか」とか、そういういろんな観点から・・・あと地球温暖化っていう観点からは、石炭火力と原発と、どっちがどうなんですか、みたいな人だってあり得るので、そういう意味で、ほんとにいろんな観点から意見をぶつけて、それでちゃんとみんなが納得して決めるっていうのが、ほんとに、あるべき姿だと思います。

河井 同じ考えの人が集まるんというのとはちょっと違うわけね。

長谷川 そうそう。

河本 反対の意見の人も集めて、議論せんとあかんのですよ。だけど、運動体っていうのはそういう人をどうしても排除してしまう傾向があるよね。

河井 「熟議」という言葉が使われることが近頃多いですね。

長谷川 そうですね。

河井 あれは、どういうふうにお考えですか。

長谷川 ええ、あの英語で言うと「deliberative democracy」の翻訳なんです。だから「熟す」、じっくりと議論するっていう。

友起 よく政府は、原発にしても憲法改正にしても「国民的議論を踏まえた上で」っていうことを言うんだけど、その国民的な議論というのがどこで行われるのか、全然実感としてないんですよ。いま言われたような、議論を熟してやる、みたいところが日本にはあるんでしょうか。

河本 うん、そういうのを作らんとあかんのちゃう？

長谷川 うん、作らないとね。

河本 運動する側が作らないと、運動が広がらないよね。昨日も議論をしたけども、反対の立場の人だけで集まってやろうという考え方だと、それではもう、輪は広がらんと思うんよね。

長谷川 そうなんです。

河本 それは自分の信念として持っておけばいいことで、それと運動をどう広げるかっていうのは別の次元の問題だと思うんよね。

友起 先生の言われた、討議デモクラシーってどういうの？

長谷川 熟議デモクラシーね。討議デモクラシーでもいいけど。

友起 ああ、熟議デモクラシー。そういうのが実際に機能して、上手くいっている国とかいうのはあるんですか。

長谷川 例えばデンマークとか、比較的北欧がやってるんじゃないかな。・・・ま、いろんな形で、韓国なんかも原発問題について、賛成派が結果的に多く出ちゃったんですけどね、今のムン・ジェイン大統領になってから、建設中の原発の工事を続けるか、それともやめるかということについて、2万人から500人を選び、いろんな立場の人に集中的に議論させる試みをやったんです。高レベル放射性廃棄物の最終処分場をどうするかという問題についても、日本学術会議で私達、いろんな形で、多角的・多層的に検討を重ねましょう、という答申を出しました。ひとつには、専門家の中で議論することもやっぱり大事で、どういう論点がちゃんとあるのか、論点の所在について、専門家の間でも意見が一致しないようだったら、もう到底合意形成はダメなわけですから。

河井 専門家というのは技術の、という意味ですか。

長谷川 いや、技術のだけじゃなくて、社会学の人とか、経済学の人とか、政治学の人とか。理科系ばかりの人だとすごく狭いですからね。

河井 テレビなんかでよく政党代表が並んで一時間くらい討論やったりしますね。あれの効果っていうのはあるのかなーって僕は思うんだけど。時間が短いとか、運用の仕方の問題があるんでしょうがね。色んな意見があるんだなあってことがわかった、というので終わる。

長谷川 でもやっぱり、ないよりは遥かにいいと思いますよね。

河井 案外ああいう時には、Aさんが発言したら、それについて意見を言わせるということはないで、他の人に違う観点で話をさせる。結局、一生懸命言っても、それが議論にはつながらないということが多いような感じがしますね。それが中立的だというふうな印象を与えるのじゃないかなと思うんです。あっちで言ったことについて、こっちが別のことを言うと、收拾つかなくなるということがあるんですかね。

長谷川 テレビの場合だと特に、自分の党の主張をするっていう場所なので。熟議デモクラシーの場合には本当は、相手の意見を聞いたら、自分の意見を変える、相手の意見を踏まえて自分の意見を変える可能性があるっていうことが前提にならなきゃいけないんだけど、今まで自分はこういう観点についてはあんまり考えていなかったけど・・・例えば岩国基地なら岩国基地の問題について、日本の防衛という観点から、あと沖縄の基地軽減という観点から、岩国基地の機能を拡大することはやむを得ないって考えていた人が仮りにいたとして、その人が大島の話の話を聞いて、「あ、やっぱり地域住民にとっては、騒音とか、非常に大

きな問題を抱えてるんだな」っていうことを認識するっていうふうに、そういう議論をすることによって自分が今まで重視していなかったような観点が重要だって分かるっていうことにしないと、合意形成には行かないわけです。だから自分は絶対、この岩国基地の拡大に賛成の意見で、この意見を変える気はないんだっていうことならば、結局は、熟議デモクラシーの大前提がないんですよ。日本の電力会社は、その最たるものだと思うんだけど、結局住民の意見を聞いても、そもそも計画変更する余地はないわけなんですよ。

河井 仰言るように、我が党はこう考えるんだと、これは宣伝のいい機会だと考える。

長谷川 そうなんです。どこもね。まあ選挙控えてるからっていうことも。(苦笑)

河井 党の政策を変えちゃいけないわけなんですよ。

長谷川 そうそう、変えちゃいけないんです。

河井 そういう(選挙のような)時に討論会をやるので、あまり意味がないことが多いです。

議会報告

山口県議会 12月議会 12月5日(木)

井原すがこ議員 米軍基地を抱える都道府県の集まりである渉外知事会は、毎年、日米地位協定の改定を求める要望を行っています。そこで、地位協定の改定に向けた取り組みについて知事の考えをお聞きします。

県知事答弁 騒音や事件・事故など、基地に起因する問題を抜本的に解決するためには、地位協定の改定が必要であり、関係都道府県と連携して粘り強く国や米側に働きかけます。

井原メモ 基地問題で、米軍のホームページにアップされている事故報告書と、米兵の手放し操縦や麻薬などの英文の資料を、県も市も読まないまま(英語で読めなかったと・・・本当は読んでいないはず)と、とぼけた答弁をしています。何とも情けないことですし、市民は誰を頼りに生活したらいいんだろうかと悲しくなっていました。

周防大島町橘地区の方と、岩国市平田の女性から協力金をいただきました。ありがとうございました。元気がでてきます。



爆音が激しい時は、「飛ぶのをやめさせるように」と電話して下さい。

苦情電話先 周防大島町総務課 0820-74-1000 (夜間も受付)

岩国市基地政策課 0827-29-5024 (夜間 0827-29-5111)

防衛省中国四国防衛局 0827-21-6195

米海兵隊岩国航空基地 0827-79-5551